

天文教育

2022

3

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy
(PJSEPA)*



- 〈原著論文〉高等学校「課題探究型授業」における天文分野の調査結果
- 〈投稿〉星座パズル工作の開発と実践／文久三年（1863 年）の天体観望会／星座早見か？ 星座早見盤か？／#VirtualCAP2021 参加報告
- 〈報告〉天文教育論文アーカイブ ～2021～／代議員・役員選挙の電子投票化について 結果報告
- 〈その他〉2022 年度 代議員および会長候補者・監事候補者選挙公示

一般社団法人 日本天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます(共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします)。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト(要旨)には英文も付けてください(英文は審査通過後に追加も可)。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただきます場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

・**締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月(発行の前月)15日です。投稿先は post@tenkyo.net です。

・本誌に掲載された記事(上記1~6および7の一部)は、当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。

・**広告掲載**を希望される方は事務局(jimu@tenkyo.net)までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000、半ページ ¥12,000、1/4ページ ¥7,000、チラシの折り込み ¥20,000です。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

別れと出会いの季節の憂鬱

2021年4月7日 20h46m, Canon EOS 5D MkIII, Nikon AF-S14-24mm F2.8G ED, ISO4000, 約2時間の比較明合成、
撮影地：乗鞍高原 撮影・解説：大西浩次

3月から4月は、別れの季節でもあり出会いの季節でもある。自然の作るリズムもまさにそうである。この時期、信州の高原は冬から春へと劇的に気候が変わる。3月末までの雪が、ある日突然、雨に変わる。すると、あっという間に雪原が溶けはじめ、川を作り低地へと流れ込む。こうして季節限定の池が出来上がる。夕方の西の空には冬の明るい星たちが見えている。この池に写り込むのは冬の大三角を作るベテルギウス、リゲル、プロキオンなどの星たち。時間と共に、華やかな冬の星座から穏やかな春の星座に移り変わる。そんな時間の移り変わりを1枚の写真に詰め込んでみた。

2時間の時の流れが軌跡として写っている。直線は天の赤道の星たち(例えば、オリオン座の三ツ星など)の動きの軌跡だ。この直線の右上は、画面外の北極星を中心に弧を描き、左下は天の南極を中心に弧を描いている。これらの弧の様子は、天球での星の動きを平面に投影している結果である。このような星たちの動きと、雪解け水の池に反映する星たちが、シンメトリックでグラフィカルな幾何模様の光景を作っていた。

この美しい水の惑星「地球」の上で、ある時は笑い、ある時は悲しみながら多くの人々が生活している。私たちは「星空への気づき」が世界を平和にするはずと信じつつ、戦争を止める事もできない現状に敗北感を感じている。天文教育で平和を作れるのだろうか。その答えはこれから作ってゆくのだろう。